

飯島町 越百黄金（コシヒカリ）栽培基準（令和3年度版）



【種子の全量更新】
・温湯消毒種子に全量更新が基本

【種子消毒】
・60℃の温湯に10分間浸漬後、ただちに流水で冷やす。

【浸種】
・10℃の水で10日間浸種する。（積算温度100℃）
・もみ殻が透き通り、銜色になる。外から胚が見える。

【催芽処理】
・浸種処理は、28～29℃で20～24時間とする。
・催芽長は1mmがよい。
・30℃以上ではもみ枯細菌病の感染リスクが高まる。

【健全育苗】（病虫害対策）
・中苗の目安3.5葉（35日）
播種量乾籾90g 30箱使用

・稚苗の目安2.5葉（23日）
播種量乾籾160g 18箱使用
10cm以下もしくは葉色3以下の場合は追肥を行う。

・気温10℃以下、30℃以上、日照不足などでムシ苗が発生しやすい。

0mm 1mm 2mm

不足 適正 過剰

【田植え】
・5月25日前後とする。
・苗は葉齢2.5枚程度の稚苗～4.5枚程度の中苗が良い。
・水温が低いと活着が遅れ、初期生育が悪くなる。

（目標）16～20本/株

3～4本/株 坪50～60株

常時湛水管理 中干し 8月下旬から 間断かん水

【落水時期】
・砂壤田：出穂後40日
普通田：出穂後35日
湿田：出穂後30日
・早期落水は肥大不良と胴割れを助長する。

【収穫時期】
・目安は出穂後45日。
・出穂 8/5前後
・収穫 9/20前後

◎「帯緑色籾歩合」
・1穂のうち、緑色が残っている籾の割合のこと。おおむね10%程度の時が収穫開始時期。
・1穂には約100粒のモミが着粒しているため、穂首に近い部分に5～10粒ほど緑色のモミが残る頃。
・穂がすべて黄化し、稲全体の黄化が始まってからの収穫は遅すぎる。

| 作業日誌 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
|------|----|-------------|--|---|---|-------------|-------------|----------------------|--|--|-----|----|
| | | [/] 畝立耕起② | [/] 畝立耕起③ [/] 畝立耕起④ [/] 平耕起 [/] 基肥施肥 [/] ケイ酸資材 [/] 催芽 [/] 播種 | [/] 代かき① [/] 代かき② [/] 田植え [/] 除草剤① | [/] 除草剤② [/] 生育診断① [/] 中干し [/] ケイ酸資材 | [/] 生育診断② | [/] カムシ防除 | [/] 落水 [/] 収穫 | [/] 鶏糞散布 [/] ケイ酸散布 [/] 畝立耕起① | <p style="font-size: small;">コナヒメカマムシ ナガトゲシラホシカマムシ アカヒメハカマムシ ホソハカマムシ アカヒゲホソミドリカマムシ</p> | | |

雑草対策 「雑草の密度を減らす工夫」と「除草剤の適正使用」で対応する。

I. 稲わらすき込み法
田植え後のわら分解を抑えることで雑草の発生を抑制できる。
・稲刈り後早急にすき込む。
・すき込み条件は、地温が高く、土壌水分は低く、すき込み深さは浅いほうがよい。
・分解を早めるため、米ぬか、または発酵鶏糞を10aあたり100kg全面に散布する。
・土壌pHが低い場合や、苦土やケイ酸分が少ない場合は、炭酸苦土石灰やケイカルを施用する。

II. 畝立耕起法
冬から春にかけて土壌を乾燥させることでコナギの発芽を抑制できる。
・ロータリーのギアは最遅、耕起深度は16～18cm、畝の高さは20～30cmとする。
・2回目以降は、畝の山と谷が入れ替わるように耕起する。

III. 2回代かき法
・荒代かきから植代かきの間を2～4週間あける。
・発生し始めた雑草を植代かきの際にすき込んで除草する。

IV. 除草剤の使い方
・散布時は湛水深7～8cmで、均一に散布する。散布後1週間は田面を絶対に露出しないように水位を管理する。
・除草剤は使用時期が決まっているのでしっかり確認し、雑草が大きくないうちに散布する。
・初期除草剤は土壌表面に処理層を形成し雑草の発生を抑える薬剤なので雑草発芽前の使用を心がける。
・水持ちを良くするために、畦塗りや、丁寧な代かきが重要です。

病虫害対策 「苗箱処理剤の適正使用」と「畦畔雑草の管理」で対応する。

I. ケイ酸資材施用による対策
葉身にケイ酸を蓄積することで表皮を物理的に強化し、いもち病菌の菌糸侵入を抑制できる。
もみ殻にケイ酸を蓄積することで、玄米の一部が外部に露出する「割れ籾」が少なくなり、カメムシによる吸汁被害を抑制できる。
・秋又は春先に田んぼの味方Sを10aあたり100kg散布する。
・田んぼの味方を施用していない場合は6月下旬にケイ酸カリを10aあたり20～40kg散布する。

II. 苗箱処理剤によるいもち病対策
・いもち病防除のためには、必ず苗箱処理剤で予防する。
・田植えが5月20日前だと、苗箱処理剤の予防効果が切れる恐れがあるので、田植えを急がない。
・葉いもち病の発生が確認されたら穂いもち病の予防を行う。
・いもち病は低温、曇天、風通しの悪い地形などで発生しやすい。
・発生初期のいもち病は、薬剤で抑えることができるので、観察を行って初発を見逃さない。

III. 畦畔の雑草管理と殺虫剤によるカメムシ対策
・畦畔で越冬したカメムシは、畦畔雑草のなかで生育し、出穂後に水田に移動する。
・畦畔の草刈りはこまめに行い、出穂2週間前には必ず畦畔の草刈りを行う。
・出穂前後の草刈りはカメムシが圃場に逃げ込んでしまうため避ける。
・稲刈り後から田植え前までの間も雑草管理を徹底する。
・温暖化に伴いカメムシ被害が急増しているため、防除の徹底を。

施肥基準 「いいちゃん35改良型」による作業の省力化。
(10アールあたり kg)

| 肥料名 | 保証成分 (%) | | | 基準 施肥量 | 成分量 (kg) | | | |
|-----------|---------------------------|-----------|-----|-------------|------------|--------------|-----|---------|
| | チッソ | リン酸 | カリ | | チッソ | リン酸 | カリ | |
| 土壌改良 | たんぼの味方S | 苦土 4.5 | 4.7 | ケイ酸 21.5 | 100 | 苦土4.5 | 4.7 | ケイ酸21.5 |
| 一発基肥 (側条) | いいちゃん35改良型 (仮比重: 0.76) | 14.0 | 8.0 | 7.0 | 54 | 7.6 内化学由来 | 4.3 | 3.8 |
| 一発基肥 (全層) | | 9.0 | | | | 8.4 内化学由来 | | |

①上伊那水稻慣行N量11kg→レス50栽培の化学由来N5.5kg以下とする。
②「いいちゃん35改良型」は基肥一発型肥料のため基本的には追肥不要です。
③いいちゃん35は比重が軽いため側条施肥の際、田植え前に機械の目盛りを調整し、基準量が施用されているか確認して田植え作業を行って下さい。
④生育不良の場合は、幼穂長0.5～1cmの時点で「有機パワー018」を生育状況により10a当たり5～10kg/追加散布して下さい。
※いいちゃん35を60kg散布した場合は有機パワー018での追肥は出来ません。
⑤レス50栽培は土作りが重要です。秋起しの際に発酵鶏糞10a当り100kgを施用し、わらの分解促進と土作りを行って下さい。
⑥たんぼの味方Sは秋または春に施用できます。

防除基準 耕種的な予防防除で病虫害を抑え、農薬使用成分数は6成分以内に抑える。
(10アールあたり)

| 農薬名 | 成分数 | 使用量 | 時期および対象 |
|---------|--|-----|--|
| 育苗 | タフブロック | 0 | 200倍液 種子を24時間浸漬。微生物資材の為、農薬カウント0。 |
| 苗箱処理 | ゼロカウント粒剤 | 0 | 50g/箱 田植え2日前～移植当日 イネミスゾウムシ幼虫・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ |
| | デジタルメガフレア箱粒剤 | 2 | 50g/箱 田植え3日前～移植当日 イネミスゾウムシ・イネドロオイムシ・葉いもち・カメムシ |
| 初期除草剤 | ヒラクロンフロアブル/粒剤 | 1 | 500ml/1kg 代掻き直後若しくは田植え同時～ノビエ1.5葉期まで |
| 初期除草剤 | かねつぐ1キロ粒剤 | 2 | 1kg 移植時 移植直後～ノビエ1.5葉、但し移植後30日まで |
| 中期除草剤 | ワイドショット1キロ粒剤 | 2 | 1kg 田植え後15日～収穫前45日まで ノビエ4葉期まで、広葉雑草に強い |
| 広葉除草剤 | バサグラン粒剤/液剤 | 1 | 登録内容により 広葉雑草の多い圃場のみ使用 |
| ※ ヒエ除草剤 | ヒエクリーン1キロ粒剤/豆つぶ250/クリンチャージャンボ/トドメMF1キロ粒剤 | 1 | 登録内容により ヒエの多い圃場のみ使用 |
| ※ 穂いもち | コラトップジャンボP | 1 | 10パック いもち病の防除が必要となった場合のみ 出穂20日～5日前まで |
| ※ カメムシ剤 | キラップ粒剤/微粒剤F/スタークル豆つぶ | 1 | 登録内容により カメムシ防除として出穂期前後に散布。微粒剤は専用の「エコマキホース」が必要です。 |

※ 農薬については必要に応じて「米穀・野菜 施肥基準」の水田除草剤適用表を参考に使用して下さい。ただし、トータル農薬成分数が6成分を超えないよう注意して下さい。カメムシ剤は害虫以外の生物にも影響するため、被害の多発が予測される圃場に対して使用して下さい。

飯島町は「飯島町環境共生栽培農産物認証制度」により、町の自然環境と共生する農業を進めています。

①「越百黄金」は県の「信州の環境にやさしい農産物」認証米です。②「越百黄金」は町の「環境共生栽培農産物ひとつ★」認証米です。

| | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| ★ 化学肥料窒素成分 50%以下 化学合成農薬成分 50%以下 | ★★ 化学肥料窒素成分 不使用 化学合成農薬成分 50%以下 | ★★★ 化学肥料窒素成分 不使用 化学合成農薬成分 不使用 |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|

飯島町営農センター ・ 飯島町農業再生協議会
環境共生栽培普及会 (2020年11月作成)
☎0265-81-1105 (JA上伊那南部営農センター)